

靴の歴史散歩 ⑦⑥

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

まず二冊の内の一冊、『被服事務工術要領』の方から、その内容をご紹介します。

本の最初に〈縫工科ニ係ル要領〉とあって、軍絨製造法（軍服や毛布などの繊維製品）が説かれているが、製造技法以前の材料学にまで及んでいるので、かなりのページ数である。

目指す〈靴工科ニ係ル要領〉という項に出会えるのは、26ページからであった。

しかし、これとても「ソレ造靴術ヲ学ブニサキダチ 製革術ヲ研究セズンバ ソノ実業ヲトルニ当ツテ革質精□等ノ熟検ヲナス能ハズ 依テココニソノ順序ヲ陳述スルコト左ノ如シ」と前説があって、結局は原皮の勉強から始めなければならないように進められていく。

〈靴革製造術要件〉「原皮ノ名称 甲部牛皮ハ 屠ルノ後 直ニ製革ニ着手スルモノヲ生皮ト云フ。乙部牛皮ハ 甲部ニ食塩ヲ用ヒテ乾燥シタルモノヲ塩皮ト云フ。丙部牛皮ハ 甲部ヲ乾燥シタルモノヲ乾皮ト云フ。」

読み進めば興味深い内容にも出会えるかと思うが、紙数の都合もあるので、以下に

見出しの項目を列記することで、お許しをいただきたい。

〈原皮の種類〉〈生牛産地概略〉〈背のう革厚皮要件〉〈靴革裁断要件〉〈造靴術要件〉〈造靴術注意〉〈木型調製法要件〉〈紙型裁断法理由〉〈密針手入法注意〉〈皮革製作品検査ノ要件〉〈軍靴・背のう類貯蔵法要件〉〈軍靴修理法要件〉〈軍靴貯蔵法第二〉。

もう一冊の『靴工科教程書 附録』は、軍靴や背のう、革製軍帽など、興味を引かれる図版が多く、つい本文の精読がおろそかになってしまった。これについては、いずれ機会を得、再精査したいと思っている。

図版の中に、陸軍草創期の革製軍帽があったので、今回はこれを参考資料に掲載することにした。また、その同じ軍帽の実物が、幸いにも皮革産業資料館に収蔵展示されているので、見比べていただくため、写真に納め並べてみた。

写真の軍帽は、明治期に民間に払い下げられ、自警団かなにかの制帽に改装されているが、まさしくその軍帽であることは証明できるかと思う。この項続く

